

PRODUCTION OF WOOL FIBER PRODUCT HAVING MULTICOLOR EFFECT

Patent number: JP62263389
Publication date: 1987-11-16
Inventor: NISHIMURA TEIJIRO; OGUCHI KANEYOSHI
Applicant: UNITIKA LTD
Classification:
- international: D06P3/16; D06P3/854; D06P5/00; D06P5/12
- european:
Application number: JP19860105568 19860507
Priority number(s): JP19860105568 19860507

Report a data error here

Abstract not available for JP62263389

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

JP 62-263389 discloses a method for improving stain resistance of a cloth by applying a solution containing a stain blocker. Tannic acid and a sulphonated phenol-or naphthol-aldehyde condensation is exemplified as the stain blocker in the eight publications. A combination of the two compositions is not described.

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報(A)

昭62-263389

⑫ Int. Cl.

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和62年(1987)11月16日

D 06 P

3/854

3/16

5/00

5/12

1 0 3

1 2 2

6785-4H

6785-4H

7537-4H

7537-4H

7537-4H

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑭ 発明の名称 多色効果を有する羊毛繊維製品の製造方法

⑮ 特 願 昭61-105568

⑯ 出 願 昭61(1986)5月7日

⑰ 発 明 者 西 村 悌 二 郎 三重県度会郡小俣町明野476-8

⑱ 発 明 者 小 口 兼 義 三重県度会郡小俣町2550

⑲ 出 願 人 ユニテカ株式会社 尼崎市東本町1丁目50番地

⑳ 代 理 人 弁理士 森本 義弘

明 細 書

1. 発明の名称

多色効果を有する羊毛繊維製品の製造方法

2. 特許請求の範囲

1. 多価フェノール系化合物により防染処理を施した羊毛繊維と、第4級アンモニウム塩化合物によりカチオン基導入処理を施した羊毛繊維と、未処理羊毛繊維とを混合して形成した製品を、アニオン系染料により一浴で染色することを特徴とする多色効果を有する羊毛繊維製品の製造方法。

3. 発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明は、アニオン染料による一浴染色で、歪調、錯降り調の多色効果を有する羊毛繊維製品を製造する方法に関するものである。

従来の技術

従来から、歪調、錯降り調の多色効果を有する羊毛繊維の糸、編織物を製造する場合、ばら毛、スライバーなどを染色し、それらの染色物を混紡、

交捻あるいは交編織する、いわゆる先染法が実施されている。しかしこの方法の場合、染色後、紡績、撚糸、交編織等の工程が必要のため、歪調または錯降り調の糸、編織物を製造するためには、多くの時間を要し、しかも製造工程中各色ごとに機台の切替え、掃除が必要で、また製造中に屑が発生し、いわゆる生産歩留が低下するなど、非常に生産効率が低下する。従って上記の先染法では、現在最も要求されている短サイクル、少量多品種化に対応することが困難である。

上記のごとき先染法における問題に対処する方法として、一浴多色染色法が行なわれている。これは、たとえば黒クロム酸塩で前処理した羊毛繊維と未処理羊毛繊維とを混合したマルチクロム法、カチオン基を導入した浸染処理羊毛繊維と未処理羊毛繊維を混合する方法など、処理羊毛繊維/未処理羊毛繊維のごとく、同一染料に対する親和性の異なる2種類の繊維を混合した糸、編織物を一浴で染色する方法である。羊毛繊維の浸染処理としては、上記のほか塩素化合物あるいは過酸化